

令和 8 年度第 1 回運営推進会議報告書

法人名	大山町社会福祉協議会	事業所名	地域密着型通所介護ほほえみ
開催日時	令和 8 年 5 月 27 日(水) 14:00~15:00		
参加者	利用者(1名) 利用者家族(1名) 地域住民代表(2名) 大山町職員(1名) 事務局(2名)		

1. 活動状況報告

地域密着型通所介護と総合事業、元気アップ(R7.10月~R8.3月まで)の登録者数及び、延人数についての報告を行う。入院や冬季期間の施設入所に伴う利用終了が数件続いたが、新規利用が続き、昨年度同時期に比べると、利用者数が増加傾向となった。どの曜日でも定員いっぱいのご利用があり、お問合せを多数いただいたが、お断りをさせていただくこともあった。

2. 活動状況に関する評価

【活動実績について】

前回同様 10 月からの行事内容について、スライドショーを通じて紹介を行う。地域ボランティア様には毎月又は2か月に1回お越しいただき、絵画教室やしめ縄作り、朗読、マジックショーなど様々な内容で交流を行うことが出来た。今後もご縁を大切に交流を行い、喜びや達成感を感じて過ごしていただく。

【事故・ひやりはっと報告について】

事故・ひやりはっと報告書集計表を用いて事故内容を報告及び今後の対応策について説明を行う。事故発生後は、職員間で事故内容の共有を行い、事故についての要因や再発防止策の検討を行った。ひやりはっとは、内容が重複するものがあるが、対策を講じることにより事故を防止することが出来た。今後も事故に繋がる可能性がある気付きを職員間で共有し、注意喚起を行い、事故防止に努めていく。

3. 事業所への要望、助言等(※会議で委員が発言した主な要望、助言等を記載)

①	にやりはっとは良い取り組みであるが、苦情があった場合はどのように対応されるか。
②	楽しそうに笑顔で過ごしておられることが分かったが、実績の中に年齢が分かるものがあると良いのではないか。
③	介護度が下がり、利用出来なくなった方はおられるか。
④	事故・ひやりはっとは件数が少なければ少ないほど良いと思う。しかし、ゼロにはならないと思う。発生場所に偏りが見られるため、その場所を特に気にされると良いと思う。

4. 要望、助言に対する考え方(※上記3に対する事業所の考え方を番号順に記載)

①	苦情受付書という書類で報告を行う。令和 7 年度下半期には苦情はなく、今後苦情があった場合は運営推進会議にて報告を行う。
②	口頭で最高齢と最年少の報告を行う。
③	要介護から要支援に介護度が下がる方は殆どおられず、介護予防には努めているが、要支援から要介護へ介護度が上がる方が多い。
④	1 日あたり 6 名程度の職員体制である。職員が多くても事故が起こる場合もある。しかし、対応や声掛けを変えるだけでも防げる事故はあると思う。件数を減らす努力をしていくが、ただ件数を減らすことに囚われず、報告書をあげることにより注意喚起を行い、重大な事故に繋がらないようにしていく。

5. その他(※上記3に該当しないその他の主な事項を記載)

令和 8 年 1 月より食費を 600 円から 700 円へ変更した。食費変更に伴い、料金表を入れたパンフレットを作成。